

令和6年度 入間市防災訓練

～実災害に対応した訓練～

(中学生【避難所開設・運営編】)



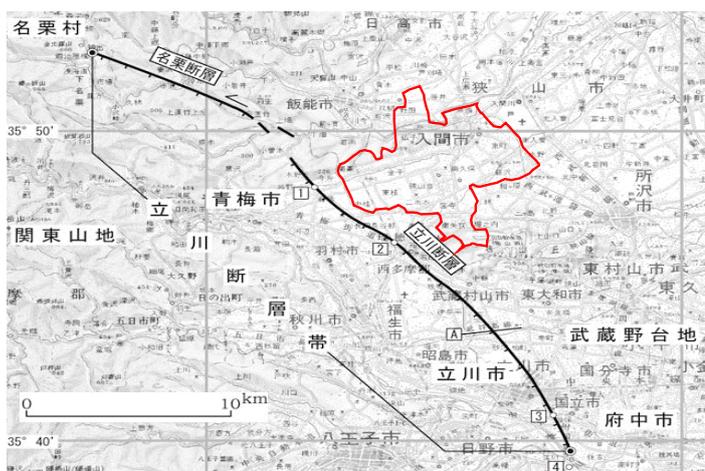
令和6年度 第46回入間市防災訓練概要

1. 目的

近い将来発生するとされている首都直下地震や立川断層帯に起因する活断層地震を想定し、自助・共助・公助体制を検証するために訓練を実施する。

また、震災時、風水害時ともに必要不可欠な避難所の開設手順や運営方法を確認するとともに、災害対策本部や現場本部の統括について強化を図る。

<立川断層と入間市の配置図（地震調査研究推進本部発表の図を抜粋。入間市境界を加筆。）>



参考

埼玉県の地震被害想定調査によると立川断層が活動した場合に発生する地震が、入間市に最も大きな被害をもたらすものと予測されています。（30年の発生確率は0.5～2%）

平成7年 阪神・淡路大震災 30年の発生確率は0.4～8%

平成28年 熊本地震熊本地震 30年の発生確率は0～0.9%

令和6年 能登半島地震 30年の発生確率は1～3%

※発生確率は、発生直前の数値

2. 訓練想定

令和6年11月10日（日）午前8時15分、立川断層帯によるマグニチュード7.4、震度6強の強い地震が発生し、直前には季節外れの長雨により市内の土壤雨量指数も高い状態にあったため、土砂災害も発生している。（埼玉県地震被害想定調査に基づく地震の規模等）

地震により家屋が多数倒壊し、火災も多発し、また、電気、電話、ガス、水道などのライフラインに重大な障害が発生している。市は地域防災計画等に従い災害対応を開始する。

3. 重点項目

災害発生から数時間を想定して、実態に合わせた訓練を実施する。

- ①避難所開設及び運営訓練の実施
- ②現場本部訓練の実施
- ③災害対策本部訓練の実施

4. 共同主催

入間市・入間市連合区長会

5. 訓練実施日

令和6年11月10日（日）雨天決行

（気象警報発令時など災害発生の恐れがある場合は中止）

6. 訓練会場

- ①48会場 避難所※豊岡高校・向陽高校・武道館・市民体育館、東金子地区体育館、やまゆり荘を除く
- ②9会場 現場本部（各地区センター）
- ③1会場 災害対策本部（市役所）

参加団体

1. 航空自衛隊入間基地
2. 埼玉県危機管理課
3. 埼玉県西部地域振興センター
4. 埼玉西部消防組合入間消防署
5. 狭山警察署
6. 狭山市危機管理課
7. 所沢市危機管理室
8. 飯能市防災危機管理室
9. 日高市危機管理課
10. 陸上自衛隊第3 2 普通科連隊第1 中隊
11. アニマルパートナーチームK
12. 一般社団法人入間地区医師会
13. 入間ガス株式会社
14. 入間ケーブルテレビ株式会社
15. 入間市管工事協同組合
16. 入間市議会
17. 入間市国際交流協会
18. 入間市災害対策協会
19. 入間市消防団
20. 社会福祉法人入間市社会福祉協議会
21. 入間市内郵便局
22. 入間市民生委員・児童委員協議会
23. 入間電設会
24. いるま野農業協同組合第二事業本部入間地域
25. エートス協同組合
26. 株式会社アクティオ 西多摩営業所
27. 株式会社エフエム茶笛
28. 株式会社共栄ベンディング
29. 株式会社スズキガス
30. 株式会社フェイス
31. 埼玉県LPガス協会西武支部入間地区会
32. 埼玉県トラック協会いるまの支部
33. 埼玉レスキューサポート・バイクネットワーク
34. 狭山地方交通安全協会
35. 損保ジャパン株式会社 埼玉支店所沢支社
36. 大東ガス株式会社
37. 東京電力パワーグリッド株式会社川越支社
38. 福山通運株式会社
39. ヤマト運輸株式会社

実災害に対応した訓練の実施

大地震では、混乱や不安で普段の生活や行動ができなくなります。

入間市の防災訓練では、災害時に市民、生徒、教員が迷うことなく、安全な行動ができるよう防災知識や技術を身に付けることを目的として災害時の行動や対応方法を確認するようにしています。

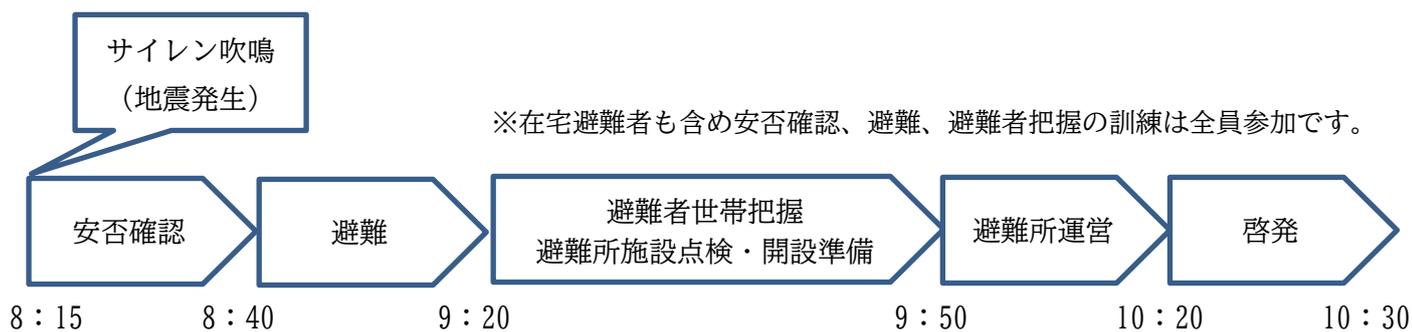
避難所の開設や運営の責任者は市職員となりますが、災害の規模が大きいほど職員がかけつけることが困難となり、また、十分な職員数を配置できない状況も考えられます。

こうした状況であっても、避難者の安全な空間確保が必要なため、避難された方自ら避難所を開設していただく必要が生じます。

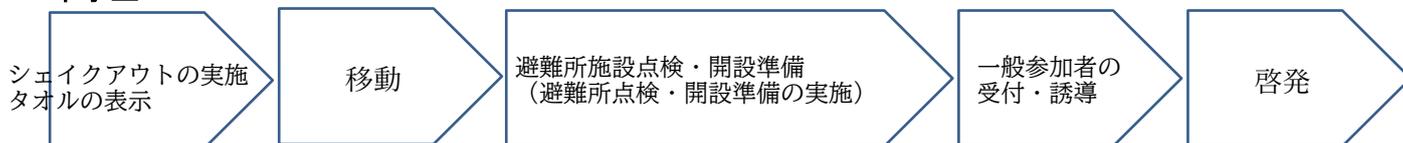
平日の日中に地震が発生すると、市職員が学校に向かいますが、この時点で学校には教員と生徒だけであり、その間にも避難者は学校に避難してきます。

そのような状況の中、学校で避難者を受け入れるため、生徒の皆様には避難所訓練を体験していただき、実際の場面で協力できるようにしていただきたいと思います。

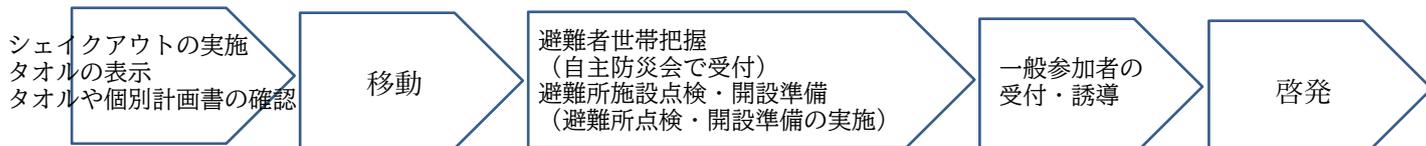
防災訓練タイムスケジュール



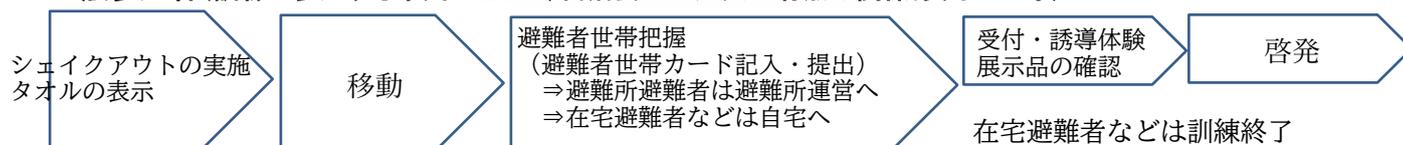
中学生



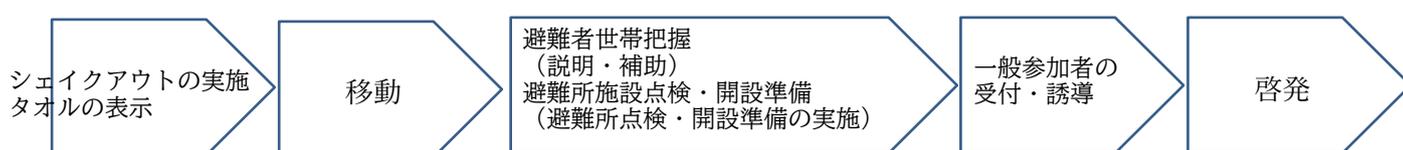
自主防災会(区長(会長)、副区長(副会長)、会計(監事)、各役員、班長(組長)などの方です。)

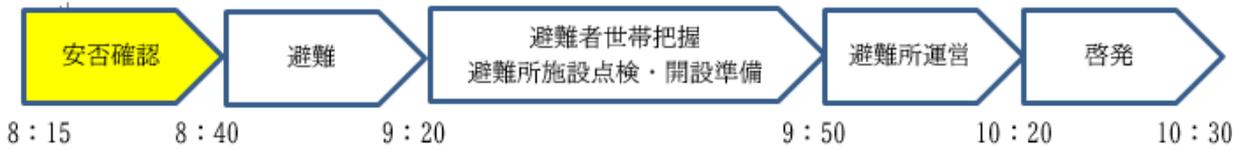


一般参加者(訓練に参加する市民のことで、自治会への加入の有無は関係ありません。)



避難所対応員(市職員)





1 安否確認訓練

訓練時間 8時15分～8時40分頃（目安の時間）
訓練内容 各家庭で安全確保行動を行い、家族や近所の安否確認を行う訓練です。
訓練場所 自宅
対象者 中学生

①安全確保行動(シェイクアウト)の実施

8時15分のサイレンになったら、直ちに各家庭で安全確保行動をします。

※サイレンが地震の発生とします。



安全確保行動（シェイクアウト）とは、地震の際の安全確保行動 1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」を身につける訓練です

②安否表示の実施

(1)各自で火元確認や出口を確保し、各家庭で安否確認を行います。

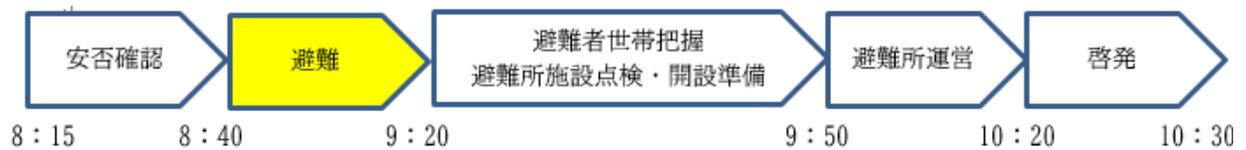
(2)外部への安否表示として、タオルを使用し、ポスト・ベランダ・扉のノブなどに結び付けます。

※タオル表示は、すべての訓練終了後に取り外します。

なぜ、タオルを表示するの？

タオルを玄関や門扉、郵便受けに結ぶことで「我が家は無事です」の目印を示すものです。

タオルが無い場合は、安否確認が必要であるサインとなり、救助が必要な方を一早く救助するため、周囲の方に気づいてもらいやすくするものです。



2 避難訓練

訓練時間 8時40分～9時20分頃（目安の時間）

訓練内容 自宅から在学の体育館（避難所）に移動する訓練です。

訓練場所 自宅から在学の体育館（避難所）へ

対象者 中学生

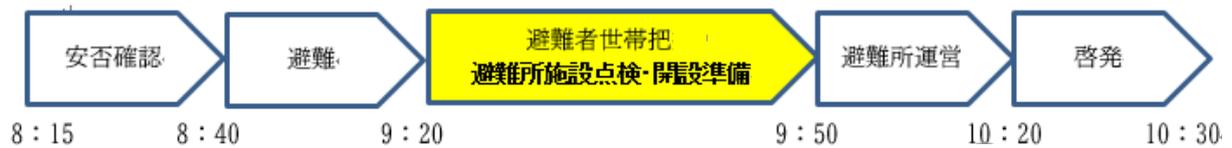
①在学の体育館（避難所）へ移動

- (1)通学カバンの中に、筆記用具、メモ用紙、上履きを入れて通学をします。
- (2)9時20分から「4 避難所施設点検・開設準備訓練」を開始するため、9時15分には、在学の体育館入り口に集合します。
- (3)体育館の入り口に到着後、避難所対応員（市職員）に登校したことを伝えます。

3 避難者世帯把握訓練

避難者世帯把握訓練は、行政（入間市）と自主防災会員（自治会）が避難状況を把握するため、自主防災会が避難所の屋外に受付を設け、地域の避難状況を把握します。

自主防災会（自治会）、一般参加者（訓練に参加する市民）、避難所対応員（市職員）で実施しますので、中学生は「4 避難所施設点検・開設準備訓練」を実施します。



4 避難所施設点検・開設準備訓練

訓練時間 9時20分～（開始の時間）

訓練内容 避難所開設に向けて、施設点検、防災倉庫からの運搬、避難所の開設準備を行う訓練です。

訓練場所 避難所

対象者 中学生、自主防災会、避難所対応員

①防災倉庫の確認

- (1) 避難所対応員が自主防災会と中学生を防災倉庫に案内をします。
- (2) 防災倉庫を開け、地震時のチェックリストを取り出します。

②施設点検の実施

- (1) 目視で施設外部をチェックします。
- (2) 避難所施設を開け、目視で施設内部をチェックします。
- (3) 防災倉庫から備蓄品を運搬します。

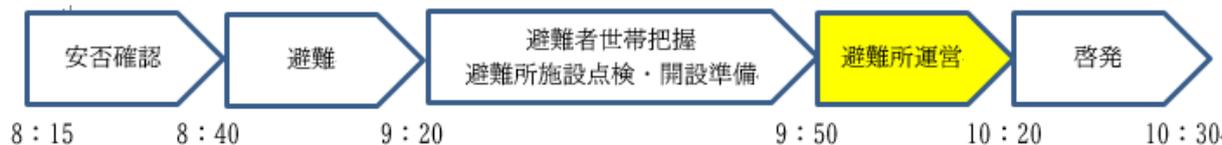
③開設準備の実施

- (1) 避難所で受付、貼り紙、テントなどを組み立てます。
- (2) 防災倉庫の備蓄品（段ボール）を開け、展示します。
- (3) 避難所運営に向けて、受付方法（ペット受付含む）、誘導方法、配置など、自主防災会、避難所対応員、中学生で調整を行います。

なぜ、避難所の施設点検をするの？

地震によって照明器具や天井材が落ちていたり、余震によって固定されていた部材などが落下するといった二次災害を防ぐためにも、はじめに、施設の安全点検をしなければなりません。点検チェックリストは防災倉庫にあり、チェックリストを使いながら点検を行います。





5 避難所運営訓練

訓練時間 9時50分頃～（目安の時間）

訓練内容 避難所運営側と避難者側に分かれて、案内や誘導など実際の流れを体験する訓練です。また、防災倉庫にある備蓄品を展示します。

訓練場所 市指定避難所

対象者 中学生、自主防災会、一般参加者、避難所対応員

中学生と自主防災会は、一般参加者の受付、避難スペースへの誘導

一般参加者は、避難者として受付、避難スペースへ移動

避難対応員は、受付、施設案内、避難スペースへの誘導、展示品の管理

①避難所の受入

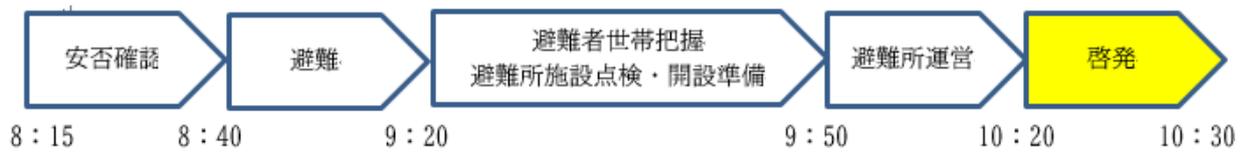
- (1) 自主防災会と避難所対応員は、一般参加者の受け入れるため、受付整列員、受付員、受付案内員、受付後の避難スペース誘導員をそれぞれの位置に配置します。
- (2) 一般参加者が避難所施設に入ってくるため、受付、案内、誘導を行います。
- (3) 受付は、ペットの受入れや要配慮者などに、配慮し受付を行います。
- (4) 備蓄品を展示していますので、一般参加者に見てもらいます。



なぜ、自主防災会や中学生が受付をするの？

市職員や施設管理者が避難所の開設を行います。特に震災時の災害規模や状況によっては、市職員等がかけつけることが困難となり、また、十分な職員数を配置できない状況も考えられます。そのような時は、避難所の周囲に居住する避難者が自ら避難所を開設しなければならない状況が起こります。

また、平日の日中に地震が発生すると、直ちに避難者は学校に向かうため、教職員と生徒での対応に頼ることとなります。近隣住民、生徒、教員が困らないよう、防災訓練を通じて避難所の開設を体験（訓練）することが重要です。



6 防災啓発の実施

訓練時間 10時20分頃～（目安の時間）
訓練内容 防災啓発及びアンケートを実施します。
訓練場所 市指定避難所
対象者 中学生、自主防災会、一般参加者、避難所対応員

①防災啓発の実施

避難所対応員または参加団体が防災啓発を10分程度行います。

②アンケートの実施

次年度の防災訓練に向けてアンケートを実施します。ご協力をお願いします。

③ボランティア実施の報告

避難所対応員に『学年』『氏名』『電話番号』を報告します。

※訓練終了から1週間程度で、登録したメールにボランティア証明書を送付します。

④片付け

避難所の訓練は終了です。片付けや清掃をします。